

新古今和歌集

一
伝亀山院・青蓮院道円親王筆

愛媛
大学
古典叢刊

25

愛媛
大学
古典
叢刊
25

新古今和歌集

一

伝亀山院・青蓮院道円親王筆

第二期 刊行書目（太字既刊）

- 15 拾遺和歌集 上 伝一条為忠・世尊寺行忠筆本
- 16 拾遺和歌集 下 伝一条為忠・世尊寺行忠筆本
- 17 大海集 上
- 18 大海集 下
- 19 景清
- 20 春鑑抄他
- 21 古今著聞集私記
- 22 正統古事談・十訓抄私記
- 23 源氏物語 上 伝冷泉為相他筆鎌倉期古写本
- 24 源氏物語 下 伝冷泉為相他筆鎌倉期古写本
- 25 新古今和歌集 一 伝亀山院・青蓮院道円親王筆
- 26 新古今和歌集 二 伝亀山院・青蓮院道円親王筆
- 27 新古今和歌集 三 伝亀山院・青蓮院道円親王筆

（以下三点）

愛媛大学 古典叢刊 25

新古今和歌集 一 伝亀山院・青蓮院道円親王筆

昭和五十一年二月一日発行

編者 中 小路 駿 逸

刊行 愛媛大学 文学部 国語国文学研究室 愛媛大学 古典叢刊 行会

松山市文京町三

印刷所 有限 青葉 図書印刷部

松山市小栗六丁目三十二

790 松山市小栗六丁目三十二

発行所 青葉 図書

電話（〇八九九）四三一六一五
振替 徳島 六二一〇

凡 例

一、本書には、今治市の河野信一記念文化館所蔵、伝亀山院・青蓮院道円親王筆「新古今和歌集」上下二冊を複製し、巻第六までを第一冊に、巻第七から巻第十四までを第二冊に、巻第十五以下を第三冊に、それぞれ収めた。

一、本文歌頭に国歌大観の番号を付した。

目次 (一) (三)

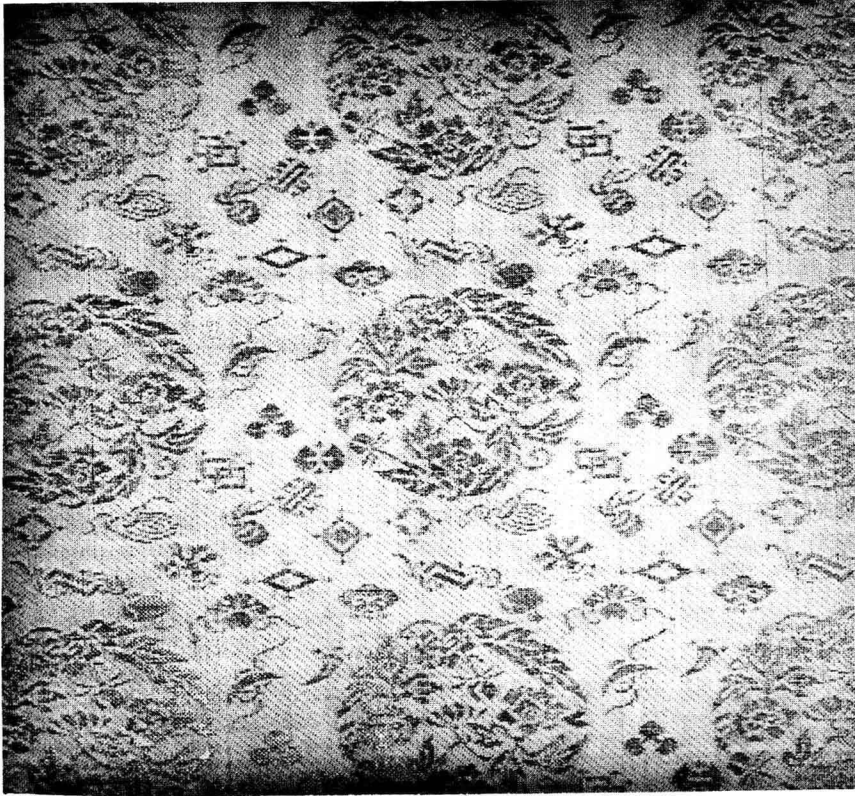
原本上 第一冊

真名序	五
仮名序	一三
卷第一	春歌 上(一) (九八)	二七
卷第二	春歌 下(九九) (一七四)	六三
卷第三	夏歌 (一七五) (二八四)	八九
卷第四	秋歌 上(二八五) (四三六)	一二七
卷第五	秋歌 下(四三七) (五五〇)	一七九
卷第六	冬歌 (五五一) (七〇六)	二一九
第二冊		
卷第七	賀歌 (七〇七) (七五六)	二七三
卷第八	哀傷歌 (七五七) (八五六)	二九五
卷第九	離別歌 (八五七) (八九五)	三三四

卷第十	羈旅歌 (八九六、九八九) ……………	三六一
卷第十一	恋歌 一 (九九〇、一〇八〇) ……………	四一三
卷第十二	恋歌 二 (一〇八一、一一四八) ……………	四四七
卷第十三	恋歌 三 (一一四九、一二三三) ……………	四七五
卷第十四	恋歌 四 (一二三四、一三三五) ……………	五〇九

第三冊

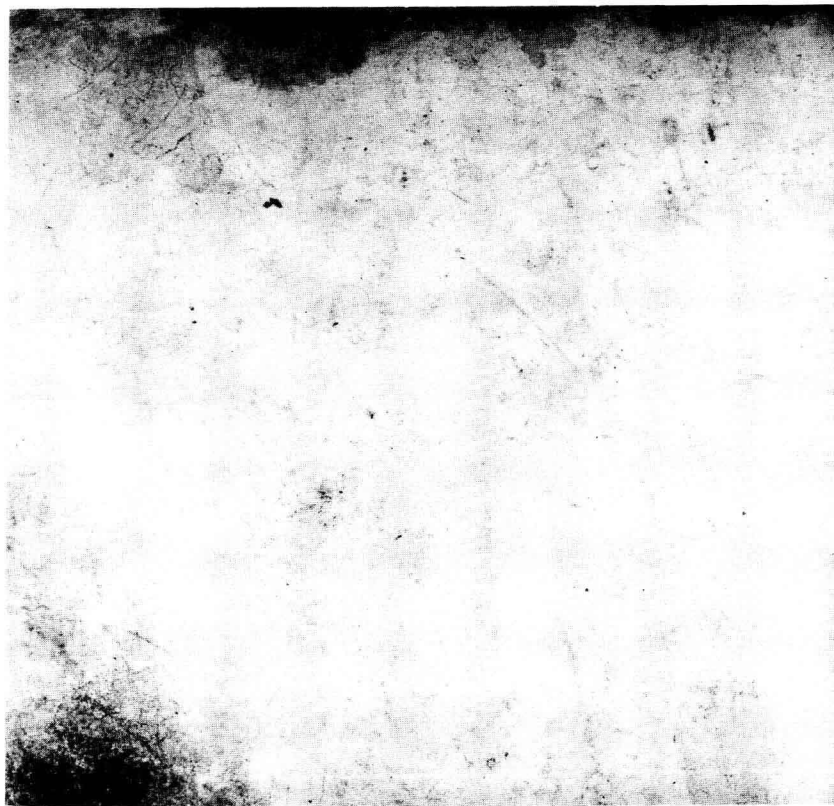
卷第十五	恋歌 五 (一三三六、一四三四) ……………	五四五
卷第十六	雑歌 上 (一四三五、一五八五) ……………	五七七
卷第十七	雑歌 中 (一五八六、一六八七) ……………	六二五
卷第十八	雑歌 下 (一六八八、一八五一) ……………	六六七
卷第十九	神祇歌 (一八五二、一九一六) ……………	七一一
卷第二十	釈教歌 (一九一七、一九七九) ……………	七三九



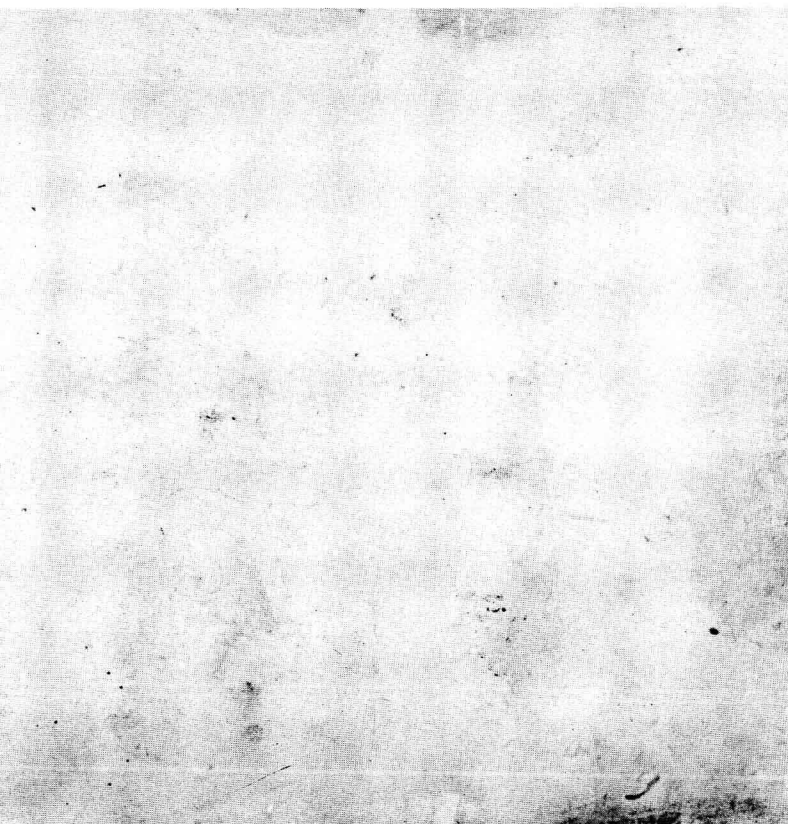
上 表紙



見返し



遊紙才



遊紙ウ

新古今和詞集序

夫和歌者羣德之祖百福之宗也
玄象天成五際六情之義未著
素鵝地靜三十一字之詠甫興
介末源流寔繁長短雖異或
抑下情而達用或宣上德而致化
或屬遊宴而書懷或採艷色而
寄言誠是理世極中之鴻徽
賞心樂事之龜鑑者也是以
聖代明時集而錄之右窮之精微

何以偏脫然猶岷嶺之玉探之
有餘劄林之材伐之無盡物既如此
歌之宜然仍詰參議右衛門督源
朝長通具大藏卿藤原有家左近衛
權中將藤原朝長之家前上總介
藤原朝臣家隆左近衛權少將藤
原雅經等不擇貴賤高下令撰
錦句玉章神明寺詞佛院之作
為表希素難而因姝始於曩昔

子至玄圃花芳之朝璫石月涼之
夕射難彼律之道流尋漢香定
芳獨或吟或詠核犀象之牙角
無靈女偏探翡翠之羽毛裁成
得二千首類聚而為二十卷右新
古今和歌集矣時令節物之扇
屬四序之星羅衆作雜詠之什
並群品之雲布綜緝之致蓋去
伏惟來自什部而踐天子之位謝
漢宮之追沁陽之蹤

今上陛下之歲親也雖無際帝道
之諮詢日此朝廷之本主也事不
賞我國之習俗方今荃宰合弊
華素詠仁民化之樂方眷日野
之草忠靡月宴之契子秋之津
州之塵堆靜誠膺三為有截之
時可願涖毫標修之志故撰斯
一集永欲傳百王彼上古之方象
集者蓋是和歌之源也編次之

數相進喜有古今集四人合論命
而成之天曆有後撰集五人奉
錄言而成之其後有拾遺後拾
遺金葉詞苑子載等集雖出於
聖王教代之初殊恨為撰者一身
之窮困茲訪巡喜天曆二朝之選
美定代河步虛五車之美豪華排
神仙之居辰刊備之席之已斯
集之為辨也先抽百卷集之
中更拾古今集之外深索而

徵長士遠廣求之斤善必舉但
雖張綱於山野徵禽自逸雖連
鑿書江湖小舞偷偏誠當視聽之
不達定有篇章之指遺今且隨
採得且所勒後也採古者不
載當什之裨製自後撰之初如
善時之天章各考一部不滿十篇
而今所入之自錄已餘三十首義
若相並一而雖可足依云凡骨之

正之思不應多情之眼允厥取
捨者嘉尚之餘特運冲襟伏養
基自之德与口十美年其域自雖
觀聖造之書史焉神武矣帝功
与八十二代當朝未聽 敬策之
撰集去定和天下之都人士女謳
歌斯道之過逢矣不獨託仙詞
無何之鄉有朝風咏月之興亦
欲呈皇家元久之歲有過故
知新之心候撰之趣不在茲乎